

## 令和7年度第2回北杜市小淵沢エリア振興ビジョン推進会議 議事録

1. 会議名：令和7年度第2回北杜市小淵沢エリア振興ビジョン推進会議
2. 日時：令和7年11月28日（月） 午前10時～
3. 場所：北杜市役所北館3階 大会議室
4. 出席者：  
  
【委員】茅野秀明・進藤忠衛・中山宏樹・渡邊聡尚・山野貴史（望月和彦代理）・山内一寿・小谷壮之・高橋怜央・山下美帆・河野明・深沢武人（小林宏行代理）・相川忠仁・吉野正則・大芝一・加藤郷志・齊藤乙巳士・渡辺美津穂  
  
【関係者】大山勲（オブザーバー）  
  
【事務局】宮川勇人政策調整官・進藤修一政策推進課長・篠原振一郎政策調整担当リーダー・大久保裕斗政策調整担当
5. 内容
  - (1) 開会
  - (2) 会長あいさつ
  - (3) 議事
    - ①進捗状況について
    - ②その他
  - (4) 閉会
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：1人

## 議 題

### ①進捗状況について

事務局：小淵沢エリア振興ビジョン及びプロジェクトチームの進捗状況について説明

委 員：景観づくりについて、電柱の地中化や街路灯の整備のほかに、「馬のまち」を表すようなモチーフを作っていただくと観光客に対し、上品な形で「馬のまち」というものを訴求できるのではないかと。ぜひ御検討いただきたい。また、現在、馬に対して安全安心に楽しみ、馬と住民がうまく共存していくためのルールを「馬のまち活性化協会」で調査をしながら進めている。今後発信していく段階になった際には、自治体と連名または後援といった何らかの形で御協力いただきたい。

事務局：「馬のまち」というコンセプトがあるため、通常の歩道の整備事業とは異なるものと考えている。今後、関連するプロジェクトチームと共有しながら進めて行きたい。

事務局：ルール作りについては、共存していくことが非常に重要になってくるため、地域方策も含めて協会の方々と連携しながら検討を進めて行きたい。

委 員：すずらん牧場について、何十年もの間、年に1・2回程度の草刈りのみであり、広い土地をどのように活用するか計画が見えてこない。牧場であるため、馬や牛の放牧をしていただきたい。海外では馬や牛が自然の中で牧草を食べている景色を見ることができる場所もあり、「馬のまち」という印象を受けられるのではないかと。民間では広い場所で馬を放牧するところはあまりないため、すずらん牧場を活用する考えはあるか。観光牧場とすれば、チーズや牛乳といった関連商品も開発することができるのではないかと考えている。

観音平展望台について、駐車場が非常に狭い。夏の登山シーズンの土日には駐車場が溢れ、渋滞が起きている。場所的に難しいかもしれないが、駐車場の延伸、または駐車場の利用料金の徴収といった対応が必要なのではないか。

延命水について、延命水の場所が鹿の水飲み場となっており、飲用として利用できない状況になっている。延命水という非常にネームバリューのある水を観光客や住民も飲用として利用したいが、現在は鹿の糞尿により大腸菌の恐れ等もあることから利用できていないため、大きめの柵を作り、鹿が入らない対策をしていただきたい。

ホースショーについて、ホースショーにおいて武田騎馬隊の再現をしたいと考えているが、県の甲冑を貸していただけないか検討いただきたい。

八ヶ岳エコーラインについて、現在長野県富士見町乙事地区で寸断されているが、当初の計画では小淵沢町までの延伸があったものと承知している。計画の状況について伺いたい。

委員（県職員）：

すずらん牧場については現在、県の牧草地として使用している。年2回程度牧草の収穫をしており、主に牛の餌として県の試験場で使用している。放牧を行うことで牧歌的で素晴らしい景観になるということだと思うが、飼料も値上がっていることから、できる限り自前で牛の餌を用意するため使用している状況である。

事務局：観音平の駐車場については、ピーク時には道路に溢れざるを得ない状況であることは承知している。現在は区画等の整備も行っていない状況であるため、そのあたりから検討を進めて行きたい。また、駐車場の上部にも駐車できるスペースがあるため、そちらの活用も考えている。敷地が限られていることから延伸は困難であるため、今の駐車スペースをうまく活用していきたいと考えている。

延命水については、観光協会と協力して柵を設置してはいるが、鹿が入らない大きめの柵の設置については現場を確認しながら対策をしていきたい。

委員（県職員）：

武田騎馬隊の甲冑の貸与について、甲冑は県の所有物ではなくレンタルで対応している状況である。そのため、甲冑の貸与は困難であるが、業者の紹介といった相談については応じることができるため、御連絡いただきたい。

事務局：エコラインについては、長野県の県道整備であることから、延伸計画も含めた状況について調査し、判明した内容があれば委員に直接回答させていただきたい。

委員：インフラ整備が高付加価値を目指すにあたり非常に重要であるが、地域全体をエリアマネジメントしていくにあたっては、プロジェクトマネージャーやランドスケープのプロ、デザイナーといったデザイン部分の専門家を入れる必要があるのではないかと。予算次第ということもあるかとは思いますが、先ほど事務局からも普通のインフラ整備ではないという回答もあったことから、外部からの招聘について御検討いただきたい。一時的に費用は掛かるが、数年後を見据えた際に、その方が良いという可能性があるのではないかとと思う。

事務局：自治体は法令に基づいた道路整備が専門であり、デザインや構造については専門外のため助言いただければありがたいと考えている。今後進めて行く中で、専門家の招聘についてアドバイスをいただきたい。

事務局：観光プロジェクトチームにおいて、コンセプトブックを作成する際に、県の

デザインセンターの専門家の意見を伺いながら進める計画もある。観光と道路には密接なつながりもあるため、デザイン部分について共有しながら取り組んでいきたいと考えている。

委員：ルール作りについて、現在、ルールの中で、例えば「この市道は馬が人を乗せて通行するため、車は一時停止して欲しい」といったマナー等についても考えている。そういった馬が通行する場所に景観に配慮した看板があるとルールと一体化して良いのではないかと考えている。看板の設置については協会単独の予算では難しいため、国の補助制度に組み込んでいただくことは可能か。

事務局：看板については、国の補助制度の対象となり得るものと考えている。ただし、車への規制については警察署との協議も必要であるため、自主的な案内看板に限られる。今後の国との事前相談の際に確認しながら検討していきたい。

オブザーバー：

景観プロジェクトチームにおける事業方針について、フェーズ1から3の流れで進めるとのことだが、フェーズ2・3については、フェーズ1が終了してから取り組むということか。もしくは同時並行で進めるのか。

事務局：順を追って取り組むというイメージではなく、フェーズ2・3については対象エリアの関係者の気運が高まった段階で進行する考えであり、同時並行ということもあり得る。しかしながら、フェーズ2・3については関係者自身の主体的な意識が前提となっているため、地域の中で機運が高まらない場合には実施できない可能性もあるものと考えている。場合によっては、本ビジョンの事業計画である10年を超えても、地域の意向によっては、随時取り組んでいくことも考えている。

オブザーバー：

理想としては、10年の間にフェーズ3まで同時並行して進めて行くのが良いのではないか。フェーズ3については法的規制を伴うため、ハードルは高いが、フェーズ2の自主規制については、存在の有無でかなり違いがあるため早めに取り組むべきである。例えば、景観に影響を与える開発は、地域の中よりも外から来る開発の方が影響は大きい。その際に、自主規制を持っていると通常の企業であれば守ってくれる。そのため、フェーズ2については早めに動かした方が良いと思う。

フェーズ1の具体的な取組について、屋外広告物に関しては調査してみると公的機関が作成したものを含め、不要なものはかなり多い。これについては、県が実施した事例があり、地元の方と広告物を全て調べ、不要なものを撤去してとくだいぶすっきりする。また、同時に主たるガードレールを茶色に塗る。これは北杜市でも実績があるが、同時に進めると良いと思われる。

予算については、県で重点的にやろうという考えがあると思うので、おそらく県の予算で実施できるのではないかと。

広告物について、規制という形で評価していくという県の条例があり、そういった一段階高い条例を考えていると思うが、その際に広告物を小さくする、色を少なくするという事も重要ではあるが、それ以上に質の高い、良いものを作るという考えが大事である。事例としては、鎌倉や滋賀県で実施していた例がある。広告物をつくる業者や掲出する店舗と一緒にデザインの検討を1年行い、それを経てから条例の形、規制の内容を考えていた。そのため、最初の検討期間を設けることが重要だと思う。また、全部一律で始めるのは難しいため、協力してくれそうなところから始めることも重要である。

フェーズ3については、北杜市は景観計画を策定している。案ではまちづくり条例に基づくものとしているが、景観地区の指定や建築協定など、景観法に基づく条例でもできるのではないかと。法的拘束力がもう少し高まるような工夫も可能かと思う。また、フェーズ3はもう少し先の話というものの、補助金を活用した拠点整備が今後進んでいくため、同時に沿道の規制を試してみることも必要だと思う。道路のデザインを向上させることはもちろん、民地側のデザインをどのように誘導していくかということも大切である。その際にどのくらいセットバックをさせていくのかといったところをスパティオで見本を見せる形で作り、他に延長していくのが良いのではないかと。馬関連プロジェクトチームの説明の中で歩道との併用区間をどうするかという話があったが、スパティオ付近では現在歩道と馬道は一緒になっているのか。スパティオの敷地の中に馬道を組み込んでいくような計画を現段階で作ることも考えられる。

馬道の整備について、すでに一周する回遊ルートがあるとのことだが、新たなコース整備も検討されているのか。乗馬の楽しみはやはり景観変化。例えば沢を渡ったり、眺望景観が開ける場所などで景色を楽しんだりすることだと思うが、現ルートは林内が多いと思われるので、新しいルートも検討していただきたい。

事務局：フェーズ2の推進については、あくまでも地域の中での自主的な気運の高まりが必要だと考えている。自身が持つ建物などの私有財産にお金を掛けて取り替えなどをしていかなければならないとなると、押しつけではうまくいかないものと考えている。自分たちの地域をこのようにしていきたいという思いが必要だと思う。また、自主規制についても限界がある。例えば、ある程度の規模の企業であれば約束いただけると思うが、中小の規模となるとなかなか聞き入れられない。むしろ自分はこういう風にしたいという強い思いを持っているケースも考えられる。自主規制により、地域の中で軋轢を受ける等の事例も実際にあるため、限界があるものと考えている。

広告建築物を市の景観条例での規制も可能ではないかという点については、現在の想定では、県の条例と併せてお示しした事業区域に適用することを考えている。県の条例改正が必要となってくるが、市から地域の指定について要望を提出し、要望を基に県で改正する段取りとなるため、要望を取りまとめる段階である程度の意見集約が必要になると考えている。

事務局：スパティオの敷地内への馬道の整備については、現在は歩道部分に馬道を整備している状況であり、スパティオ敷地内への馬道の整備は現時点では想定していないところであるが、安全面の対策方法などがあれば参考にさせてい

ただきたい。

事務局：新たなコースの検討については、現時点では検討は行っておらず、現状のコースの維持管理について検討を行っているところである。新たなコースの検討に際しては、維持管理や周回のしやすさといった課題を検討していく必要があるため、協会やホームマンクラブの意見を聴きながら検討していきたいと考えている。

オブザーバー：

屋外広告物について、現在は県の条例に従っているが、今後さらに強化するということで、高山市の例が資料に載っている。高山市のように看板を替えていくというのは規制だけでは、改修時に替えるといった形になり、すぐには変わらない。忍野村でのいい例があるが、期間を区切って補助を出すと一気に変わってくる。せっかく国の補助制度があるので、看板の補助を出すと早く進むのではないか。

観音平の駐車場について、用地がないとのことであったが、他県の事例では、道路の沿道に車が入れるスペースを作っていることが多い。周りは県有林だったかと思うので、2 m程伐採して、車が入れるスペースを確保すると、かなりの台数を捌けるのではないか。

デザイナーを入れる案は、とても良く、重要だと思う。県の景観アドバイザーなどもいるが、1回の相談で9,000円の費用が掛かる。1回では十分な支援は受けられないと思われるので、建築士の方に、道路やインフラだけでなく、建築物あるいは周辺の緑化等、トータルでこの地区のエリアデザインを相談するための予算を確保していただきたい。

事務局：看板の更新に対する補助について、市としても短期的にインセンティブがあることで、反応も変わってくるのではないかという事は想定している。しかしながら、財源が必要になるため、国の補助制度の対象となるかを含めて検討させていただきたい。

事務局：観音平の駐車場について、御指摘のとおり県有林となっている。伐採については県の事業があるが、駐車場目的が対象となるかが現時点では不明なため、県と協議したい。

事務局：トータルにデザインしてくれるアドバイザーについて、行政職員はデザイン等については苦手な部分があるため、専門家に依頼することは非常に良い意見だと感じている。予算が非常にかかるため、国の補助制度の活用を含めどのように財源を確保するか検討させていただきたい。

委員：国の補助制度について、事業案は「八ヶ岳南麓・馬のまち小淵沢」ブランド創出・拠点整備事業となっている。事業内容としてはスパティオの改修や電

柱の地中化、道路の維持管理とハードについては決まっているため、タイトルが「馬のまち」となっている以上ソフト部分で「馬のまち」を出していく必要があると思うが、そういった文言が見当たらない。例えば、民間事業者と連携した体験プログラムの醸成といった部分に乗馬など、馬に関する文言を入れた方が良いのではないか。国においても「馬のまち」とはどの部分なのか気になるのではないか。

事務局：ソフト事業における体験プログラムの造成支援において、乗馬体験等を想定していたが、御指摘のとおり、交付申請書に具体的に書く必要があると感じた。その他、馬に関連するものについても取り入れていきたいと考えている。申請までまだ時間があるため、検討させていただきたい。

オブザーバー：

フェーズ2・3については、自主的に任せするという話であったが、せっかく国の補助制度のソフト事業があるため、例えば、今後の景観形成のため、地元で売り上げなどについてもデザインできる業者や合意形成ができる業者にワークショップを開催していただく予算を計上しても良いのではないか。やはり行政側から背中を少し押してあげる場を作っていかなければ、なかなか動かないと思うので検討いただきたい。

事務局：御指摘の通り、地元から自然に機運が高まるということは想像し辛いところである。しかしながら、まちづくり計画自体は本地域に限ったものではなく、北杜市全域でやろうと思えばどこでも可能といった性格のものであることから、本地域のみ金銭を伴う投資をしても良いのか、あるいは、他の地域でも同じ対応ができるのか検討する必要がある。どこまで後押しをするのか、予算をつけるのかといった部分についてはまた別の議論が必要になるため検討させていただきたい。

委員（県職員）：

オブザーバーからの助言の通り、進めて行く上で、業者も含めて地元の方と一緒に作り上げていく必要性があると感じている。一緒に作り上げることは行政としても労力がかかる部分もあるかと思うが、先行して作り上げていく地域には、先行して取り組むことに対して助成していくことも検討して良いのではないか。今後のモデルケースとして出来上がっていくことを願っている。

委員：前回委員からホーストレッキングが人気であり、充実していただきたいとの話があったが、現在、県の恩賜林の中でトレッキングを行っており、馬術競技場においても、大泉方面まで使った大会を行った経過がある。そういった地区を広げていただき、10年、20年後を見据えての計画の位置付けをお願いしたい。

電柱の地中化については、スパティオ小淵沢の前の歩道ということだが、馬

術競技場までの間もお願いしたい。

会 長：各意見については、改めてプロジェクトチームで検討を進めていただきたい。

委 員：すずらん牧場の活用について、県で作る飼料が安いとは思わない。やはり観光牧場のようなものを作っていただきたい。また、ポロができれば、日本初の施設になると思われるので、検討していただきたい。

会 長：すずらん牧場の件については、県において共有いただきたいと思う。

委 員：報告となるが、山梨観光推進機構との取組において、小淵沢エリアの冬の誘客事業として、東京を中心とした首都圏において小淵沢を取り上げたチラシの配布を進めている。具体的には、小淵沢エリアの冬期の周遊ができるプランを主軸として、スケートパークの無料チケットを添付させていただく予定であり、弊社が運営する50～70の店舗や取引先企業、その他東京の商工会議所やJR東日本の40駅程度での設置を検討しており、おおよそ5万部を作成し配布する予定である。

会 長：市観光課においても、ホームページへの掲載について相談しながら検討していただきたい。

## ②その他

県職員：山梨県 TikTok 公式アカウントでの「馬のまち」をPRするショート動画の配信について説明

会 長：配信時期はいつになるのか。

県職員：近日中の公開となっており、早ければ本日（11月28日）の夕方には配信できる予定である。

以上